

<ケータイ使いすぎストップ> 親子で守ろう「わが家のルール」
「食事中ダメ」・限度額・罰則など一緒に話し合っ

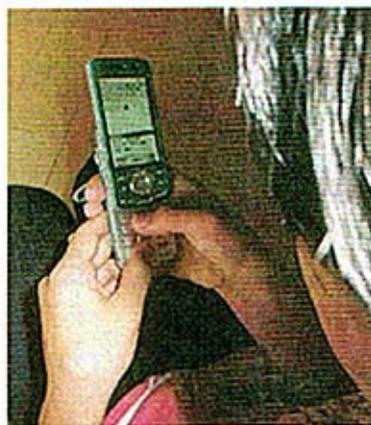
暮らし見つめて

今や高校生のほぼ全員、中学生の半数が所有し、交友ツールとして不可欠になっている携帯電話。頻繁なメール交換や音楽のダウンロードで料金が高額になり、親子げんかの原因にも。円満に料金を抑える方法は？
(砂上麻子)

一カ月、七万円。東京都内の母親(仮名)は、携帯電話の請求書を見て驚いた。高校一年の息子に聞いたはずと、主な原因は音楽のダウンロード。一カ月、携帯の使用を停止にしたが、解禁後も同じことの繰り返しだ。

千葉県内の中学二年の女生徒(仮名)のメール回数は、一日三千回を超える。母親(仮名)は「短文を頻繁にやりとりし、勉強でもすぐに返信。毎月の娘の料金は、自分と夫の合計の二倍。携帯中毒状態で、しかもどうも「うん」とか聞かない」とさじを投じている。

全農広報中央委員会が全国の中高生約一万二千人を対象にした「子どもケータイとお金に関する調査」(二〇〇五年)によると、中学生の50%、高校生の95%が携帯電話を所有。毎月の利用料が「一万円以上」は、高校生で二割、中学生でも一割いる。ベネッセ教育研究開発センターの調査(同)では、中学生の37%が、友だちに一日二十一回以上メールしていた(表参照)



中・高校生の連絡ツールとして欠かせなくなった携帯電話メール。友だちと頻繁にやりとりする機会が多く、高額な料金の原因になっている

親子で守ろう

「わが家のルール」

照。携帯電話が必要不可欠な交友ツールとなり、利用料金を押し上げている実態が分かる。

料金を抑える携帯電話の契約はどうか。パケット使用量の上限がない契約で、無料サイトやメール料金は一定額に抑えられるが、音楽サイトのダウンロード(一曲一三〇円)などは別料金。一定の料金超過で発信が停止されるサービスもあるが、「サービス料自体が高額。必要などきても、発信できなくなり、携帯の意味がない」(千葉県内の母親)と不評だ。

料金システムに頼るのではなく、親子関係のなかで、料金を抑える工夫や努力が必要

ケータイ使いすぎストップ



になる。十(情報技術)教育アドバイザーの尾花紀子さんは「通話相手や利用状況が分かる明細書を発行する契約にし、親がチェック。子どもも「料金サイト」で料金状況を「まめにチェック。その上で、限度額を超えたら携帯を止めるなどのルール作りを」と勧める。

高校一年生と中学二年生の子どもを持つ尾花さんは、一

「食事中ダメ」・限度額・罰則など一緒に話し合っ

年間で、限度額を一回超過したらいエロカード(警告)一枚、三枚でレッドカード(解約)と決めている。

尾花さんは「レッドカードはまだない。超過したときは、「文化祭の準備で通話が長くなった」など、子どもの言い分もしっかり聞いている効果が出ている。親子の信頼関係が重要」と話す。

携帯依存に陥らないように、食事中や夜十一時以降のメールや電話は禁止、家にいる時は固定電話を使用など、料金以外のルールを決めておくことも必要。その際、「親が率先して子どもと同じルールを守ることが大事。子どもだけに押しつけても効果はない」と強調する。

「自己責任」として、アルバイトをしている高校生の子どもにも料金を全額負担させる例もあるが、「子どもを正しい話めることになるので勧めない」と尾花さん。「料金が支払えなくなっても親に言えず、出会い系サイトなどに走る危険もある」と警告する。

前出の全農広報中央委員会の調査では、自分の使用料金が「分らない」という回答が最多(中学生47%、高校生37%)だった。料金を支払っている親が子どもに教えていない場合が多い。

尾花さんは「毎月の携帯料金子どもに教え、使い方を一緒に話し合っべきだ。料金を抑えるのにも効果的で、子どもの金銭感覚を育てるのにも役立つ」と話す。